議案第1号

令和3年度 事業報告

令和3年度 事業報告

I はじめに

新型コロナウイルス感染症が発生し、人々の生活様式が激変してから早2年が過ぎましたが、未だ終息の兆しが見えない状況が続いており、住民生活や活動に大きな影響を及ぼしています。

この間、大人数が集まる会議や交流の場等が深刻な制限を受け、本協議会の様々な 取り組みに影響がでていますが、コロナ禍においても取り組める内容を模索しながら 地域福祉の推進に取り組んでまいりました。

また、令和3年度は、高知市社会福祉協議会第2次発展・強化計画(令和元年度 ~令和6年度)の中間年度にあたり、社会情勢の変化を踏まえ、本協議会の理念の実 現に向け、安定した経営と収支改善に向けた見直しを行いました。この計画を策定し て以降、新型コロナウイルス感染症の感染拡大や社会福祉法の改正など社協を取り巻 く環境も変化しており、これらを踏まえた取り組みが求められています。

このような中、本協議会では、コロナ禍においても「誰もが安心していきいきと暮らせる地域社会」の実現に向け、地域住民の新たな支え合いの仕組みづくりの構築や、 生活困窮に対する支援、質の高い介護・障害サービスなどの実施に取り組みました。

Ⅱ 重点項目

1. 安定した法人運営と地域から信頼される組織づくり

生活課題の複雑化や多様化、また今般の新型コロナウイルス感染症に伴う緊急の経済対策などによって、高知市や県社協からの受託事業が増加するなど、本協議会の事業は質量ともに拡大し、同時に職員数の増加にもつながっています。

一方,地域福祉を推進する中核的な組織としての事業運営・経営ビジョンや目標を明確にした中長期計画である「第2次発展・強化計画」の中間見直しを行い,職員が各部門を越え一丸となって進めていかなければならない重点項目,3年後の到達目標の設定,計画の進捗管理等について見直しました

また、「働き方改革を推進するための関係法律の整備に関する法律(平成30年法律第71号)」及び関連法案の施行に伴い、非正規雇用労働者の処遇を改善するため、所要の改正を行いました。

2. 地域住民が安心して暮らせる支え合いの仕組みづくり

令和3年度は、社会情勢の変化などを踏まえ、第2期地域福祉活動推進計画(平成31~令和6年度)の中間見直しを実施しました。今回の見直しでは、これまでの取組を進めるとともに計画の後半期(令和4~6年度)に、新たに重層的支援体制整備事業に取り組むこととし計画に追加しました。高知市型共生社会の実現に向けて高知市や社会福祉法人、企業、様々な専門機関や地域住民等と「福祉でまちづくり」をキーワードに協働をし、地域住民が安心して暮らせる支え合いの仕組みづくりに取り組みました。また、コロナ禍で地域活動には多くの制限がありましたが、福祉教育の実践(ほおっちょけん学習・ほおっちょけん学習サポーター養成)やボランティアセンターの運営、共同募金の推進、地域生活課題に関する相談対応等を行いました。

地域生活課題の相談対応については、市内 10 モデル地区の薬局や社会福祉法人が開設する「ほおっちょけん相談窓口」に寄せられる住民の困りごとを地域で解決する仕組みとして「ほおっちょけんネットワーク会議」の開催や「生活支援ボランティア」の養成を行いました。

3.地域住民が自立した生活を営むことができるための権利擁護体制の確立

経済的な困窮や住まい・家族に関する問題等や、判断能力の低下等に起因した生活課題を抱える相談者に対し、ワンストップ機能として、まずは相談内容を受け止め、課題の解決に向けた伴走型の支援を実施しました。

また,各事業の会議や研修等を通じ,関係機関や行政との連携を深め,適切かつ円滑な事業の実施に努めました。

4. 地域住民が住み慣れた地域で安心して暮らせるサービスの実施

制度サービスとして、良質な福祉・介護サービスを担う人材の確保・育成に努め、質の高いサービスの提供を行うことはもとより、社会福祉法人であり且つ社会福祉協議会としての役割を踏まえ、出前講座や買い物支援など地域福祉活動に取り組みました。

Ⅲ 実施事業概要

1. 安定した法人運営と地域から信頼される組織づくり

- (1) 評議員会, 理事会及び評議員選任委員会の開催
 - ① 評議員会,理事会を次のとおり開催した。

◆評議員会

開催日	口	付議(議決)議案			
6 H 91 H		1 令和2年度事業報告 2 令和2年度収入支出決算			
6月21日 (書面表決) 143		3 令和3年度収入支出補正予算 4 理事の選任			
		5 監事の選任			
11月30日	144	令和3年度収入支出補正予算			
2月10日		1 令和4年度事業計画 2 令和4年度収入支出予算			
3月18日 (書面表決)	145	3 役員等の報酬及び旅費等に関する規程の一部改正			
(音曲衣伝)		4 役員報酬の総額 5 令和3年度収入支出補正予算			

◆理事会

開催日	回	付議(議決)議案
		1 令和2年度事業報告 2 令和2年度収入支出決算
6月8日		3 令和3年度収入支出補正予算 4 評議員選任候補者の選任
(書面表決)	190	5 評議員選任委員会委員の選任 6 理事選任候補者の選任
(盲囲ない)		7 監事選任候補者の選任 8 評議員選任委員会の決議の省略
		9 評議員会の招集及び開催
6月28日	191	1 会長の選任 2 副会長の選任 3 常務理事選任
(書面表決)	191	1 云及り居住 2 町云及り居住 3 市物程事居住
11月16日	192	1 令和3年度収入支出補正予算 2 評議員会の招集及び開催
		1 令和4年度事業計画 2 令和4年度収入支出予算
		3 期間を定めて雇用する職員の就業規則の全部改正
		4 期間を定めて雇用する生活福祉資金相談職員の就業規則の廃止
		5 職員就業規則の一部改正 6 再雇用職員就業規則の一部改正
		7 臨時的に雇用する職員の就業規則の一部改正
		8 パートタイマー就業規則の一部改正
3月9日	193	9 職員の給与に関する規則の一部改正
(書面表決)		10 職員の給与に関する規則施行細則の一部改正
		11 役員等の報酬及び旅費等に関する規程の一部改正
		12 役員報酬の総額 13 退職手当に関する規則の一部改正
		14 期間を定めて雇用する職員等に6月及び12月に支給する期末手当
		の特例に関する規則の一部改正
		15 育児・介護休業等に関する規則の一部改正
		16 令和3年度収入支出補正予算 17 評議員会の招集及び開催

② 評議員選任委員会を,書面表決にて下記のとおり実施した。

議案可決日	口	付議(議決)議案			
6月12日	0	1 評議員選任委員会委員長の選任			
0月12日	0	2 任期満了に伴う評議員の選任			

(2) 委員会等の開催

新型コロナウイルス感染症の感染状況に配慮しながら、名士チャリティ色紙展示即売会 収益金配分委員会や高知市社会福祉協議会会長表彰表彰者選定委員会、高知市社会福祉大 会準備会、高知市成年後見サポートセンター運営委員会、高知市生活支援相談センター運 営委員会等を対面または書面表決で開催し、事業の適切な運営に努めた。

(3) 経営管理体制の整備

① 積極的な情報公開による透明性の確保

ホームページに事業計画・事業報告及び予算・決算を掲載し、情報を開示した。

② 定款その他諸規定の整備

「働き方改革を推進するための関係法律の整備に関する法律(平成30年法律第71号)」 及び関連法案の施行に伴い、非正規雇用労働者の処遇を改善するため、諸規定の整備を行っ た。

(4) 財務管理運営の整備

① 自主財源の確保

当協議会内プロジェクトメンバーを中心に課題解決のための資金調達の手法としてファンドレイジングの仕組みを研究・協議しファンドレイジングを行うためのプロセスや実施のための組織づくりを行った。

令和3年11月には、職員対象の研修を行い、ファンドレイジングの必要性及び当協議会の取り組みについて理解を深めた。

また、マンスリーサポーター申込のパンフレットを作成し、令和4年3月からマンスリーサポーター制度を開始した。令和4年3月末時点で、個人7名、1法人で月額18,500円の申込があった。

◆会議の開催

内容	実施回数
ファンドレイジングプロジェクト会議	10回

◆研修会の開催及び参加

開催日	研修名	参加人数
11月18日	ファンドレイジング研修	61名
2月1日~3月20日	ファンドレイジングジャパン2022	2名

◆社協会員の状況

年度	区分	個人会員	団体会員	合計
今和 9年度	加入者数	734	117	851
令和3年度	金額(円)	438,000	679,000	1,117,000
令和2年度	加入者数	716	108	824
77年2年度	金額(円)	426,000	643,000	1,069,000

◆寄付金の状況 (ほおっちょけん寄付金, まごころ銀行預託金を除く)

年度	件数	金額(円)
令和3年度	23 件	2,240,554
令和2年度	11 件	646,554

② 補助・委託事業における行政との協議

平成24年度以降,補助・委託事業を実施するにあたり,補助金・受託金だけでは賄えない部分や補助金・受託金では認められない経費部分を積立金の取崩しにより賄ってきた。 適正な経費で補助・委託事業を実施し,財政基盤を安定させていくため,高知市と協議を行い,一定の改善を図った。

③ 経営改善計画の実施

安定した経営と収支改善を目的に策定した経営改善計画を下記のとおり実施した。

ア. 業務の見直しと改善

働き方改革関連法案における「同一労働同一賃金」の考え方を照らし合わせて、本協議会の非正規雇用職員の業務内容の洗い出しを行い、臨時職員、パート職員の業務内容や役割を明確化した。また、契約職員は「専任正職員」として正規雇用することとした。

イ. 自主財源確保による改善

令和3年度は大口寄付や「ほおっちょけんマンスリーサポーター」の導入により、前年度比346.5%であった。今後も自主財源確保のため、更なる広報活動拡充に努める。

(5) 組織基盤の整備

① 労務管理の適正化

職員が取得した資格を人事管理に資するとともに、職員6名と産業医1名で構成された 安全衛生委員会を毎月開催した。また、各事業所を巡視し、地震対策等必要な対策を講じ、職場環境の改善に努めた。

② 人材育成

ア、職員の資質向上のための自主勉強会の開催・各種研修会への参加促進、助成

ファンドレイジングの必要性及び当協議会の取り組みについて理解を深めることを目的に,職員を対象にした「ファンドレイジング研修」を開催した。 (再掲)

また、令和3年度新規採用職員を対象に、当協議会の取り組みやその他具体的な事業 説明を行う研修を開催した。

イ. 「自己啓発カード」の実施

職員が自らの目標達成のために研修計画を立てる「自己啓発カード」を全職員対象に 実施し、職員の資質向上に努めた。「自己啓発カード」の実施により、職員が自らの目標 を明確化し、目標に向けた研修を考えることができ、また、カードの計画をフォローす る所属長と業務における認識を深めることができた。

ウ. 階層別研修の実施

一般職員・指導監督職・管理職それぞれの職に応じて求められる役割を遂行するため の知識を身に付けるため、各階層別の研修を受講した。

研修内容	主催	受講者数	研修内容	主催	受講者数
管理職員研修	高知県社協	2	中堅職員研修	高知県社協	10
指導的職員研修	高知県社協	3	新任職員研修	高知県社協	5
			新任職員研修	高知市社協	6

エ. エリア連携会議の設置

個別支援と地域支援に従事する職員が、それぞれの業務内容や支援内容を理解し、職員間の緊密な連携を深めることを主目的に「エリア連携会議」を設置した。東西南北のエリアで、各圏域で2ヵ月に1回程度の会議を開催している。

(6) 指定管理業務の推進

① 指定管理施設の適正な管理運営

◆貸室貸出状況(上段:令和3年度・下段:令和2年度)

▼貝里貝田朳仇(工权		有料										
旅	施設名		全額有料			額免除	全額	全額免除		料	,	計
± ± 7	令和3年	件数・人数	54	647	0	0	761	10,318	2,250	14,249	3,065	25,214
東部健康福祉	年度	金額		163,290		0		0		0		163,290
センター	令和	件数·人数	57	834	2	7	705	8,599	2,174	15,318	2,938	24,758
	2年度	金 額		157,440		3,160		0		0		160,600
-1	令和3	件数·人数	170	788	0	0	96	395	1,466	8,749	1,732	9,932
南部健康福祉	年度	金 額	2	220,080		0		0		0		220,080
センター	令和2年	件数・人数	153	807	0	0	96	512	1,465	8,480	1,714	9,799
	年度 ^	金額	2	213,710		0		0		0		213,710
	令 和 3	件数・人数	0	0	0	0	216	1,545	506	5,510	722	7,055
障害者福祉	年度	金額		0		0		0		0		0
センター	令 和 2	件数・人数	0	0	0	0	200	1,227	540	5,973	740	7,200
	2 年 度	金 額		0		0		0		0		0
1.11.	令和3年	件数・人数	0	0	0	0	21	718	0	0	21	718
土佐山 健康福祉	度	金額		0		0		0		0		0
センター	令和2年	件数・人数	0	0	0	0	3	105	0	0	3	105
	度	金額		0		0		0		0		0
	令和。	件数・人数	34	256	0	0	113	3,175	190	2,287	337	5,718
春野 あじさい	3年度	金額		21,270		0		0		0		21,270
会館	令和	件数・人数	39	304	0	0	117	2,819	182	2,130	338	5,253
7 14	2年度	金額		26,850		0		0		0		26,850
	令和	件数・人数	258	1,691	0	0	1,207	16,151	4,412	30,795	5,877	48,637
計	3年度	金額	4	404,640		0		0		0		404,640
ΒI	令和2年度	件数・人数	249	1,945	2	7	1,121	13,262	4,361	31,901	5,733	47,115
	年度	金額		398,000		3,160		0		0		401,160

ア. 基本協定,事業計画書に基づく適正な管理運営

法令や高知市の関係条例を遵守し、公共施設の管理運営業務の基本である公平性や公 正性の確保を行いながら、住民にとってさらに快適で利用しやすい施設となるよう努め た。

イ. 安全管理体制の強化及び利用者サービスの向上

各指定管理施設では、それぞれ年2回災害時等による火災発生を想定した防災避難消防訓練を行うなど、万一に備えた安全管理体制の強化を行った。さらに、日常点検により、経年劣化に伴う修繕等に迅速に対応し、障害者、高齢者等の利便性向上を図った。また、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策として、手指消毒液の設置、マスク着用並びに室内換気の要請を行うとともに貸室の利用自粛要請を行った。

ウ. 自主事業の実施

例年実施している自主事業は多くの市民,特に高齢者が参加するため,令和3年度も 昨年度に引き続き,新型コロナウイルス感染症の感染被害を防ぐため開催を自粛した。

② 障害者支援窓口(土佐山健康福祉センターを除く。)

障害者手帳や各種サービスの申請、受付、交付、相談を行った。

(7) 情報発信機能の強化

① 広報広聴機能の強化

ア. ホームページの有効活用

Google アナリティクスを導入し、閲覧状況や行動パターン等を把握・分析を行った。

イ. 様々な SNS の活用

Facebook, Instagram, Twitter を活用し、本協議会の事業やイベント情報等を投稿し、幅広い世代に向けて情報を発信した。また、LINEに公式アカウントを作成し、本協議会の各種事業やイベント情報等を随時発信している。

② 第61回高知市社会福祉大会の開催

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大予防のため、第61回高知市社会福祉大会の開催を中止した。

大会にて上映する予定であった「地域福祉活動紹介動画」は、DVD に複写して、高知市社会福祉大会関係者等に配布した。

③ 「出前講座」の実施

◆出前講座の内訳

担当課	種別	実施回数	参加者数(名)	
	日常生活自立支援事業と	1	CO	
	これからあんしんサポート事業について	1	60	
	成年後見制度と	1	40	
共に生きる課	これからあんしんサポート事業について	1	40	
	これからあんしんサポート事業について	1	30	
	日常生活自立支援事業について	1	76	
	成年後見制度について	1	40	
在宅生活応援課	レクリエーション	-1	10	
(春野)		1	10	
障害者福祉センター	障害について	1	7	
合計	合計	7	263	

(8) 福祉人材の育成支援

① 各種実習生の受入, 指導, 助言

国家試験等の受験資格要件を満たすための実習生を受け入れた。

区分	実人員(名)	延日数(日)
社会福祉士	9	115
介護福祉士	17	7
合計	26	122

(9) 災害時における体制強化

① 大規模災害時初期行動計画の推進

令和2年度から各所属の課長補佐級6名で構成された災害対策委員会を常設し、初期 行動計画(第1版)に記載している災害時における参集基準、組織体系、優先事業等の 項目を見直し、初期行動計画(令和3年度修正版)を作成した。

また,同計画の見直しにあわせて,災害時対応マニュアルについても同計画と対応する項目の見直しを行った。

② 三者協定及び災害ボランティアセンター検討会議の運営

当協議会は平成21年8月に、社団法人高知青年会議所及び特定非営利活動法人 NPO 高知市民会議と三者協定を締結後、令和2年度からは行政を加えた四者で組織し、災害時における災害ボランティアセンターの設置及び運営について協議を重ねてきた。

令和3年度は、四者検討会議を3回開催したほか、関係機関、行政、地縁団体、NPOなどで構成された災害ボランティアセンターネットワーク会議を令和3年10月に開催した。第二回目となるネットワーク会議は、新型コロナウイルス感染症予防のため、令和4年2月に書面会議にて開催し、災害ボランティアセンター運営マニュアルを作成した。令和4年度以降、四者検討会議及びネットワーク会議において、運営マニュアルに基づいた模擬訓練の実施を検討する。

③ 災害時に備え、平時からの行政との協議体制の確立

高知市との災害ボランティアセンター設置運営に関する協定の締結後、高知市地域防災計画に災害ボランティアセンターと高知市災害対策本部との情報共有を行う体制の構築と平時における連携強化について明記されており平時の取組として検討会議等において担当者間の情報共有を図るなど連携を深めた。

④ 災害ボランティアセンター職員研修及び訓練の実施

新型コロナウイルス感染症予防のため実施せず。

⑤ 奈良市社協、倉敷市社協との災害時における相互支援協定の締結

本協議会では、災害時における災害ボランティアセンターの立ち上げや運営、発災後の通常業務に対する相互支援体制を構築し、円滑な災害支援を図っていくことを目的として、令和2年11月23日に奈良市社協と倉敷市社協との三者で協定を終結した。

令和3年度は、オンラインにて三市社協間の情報共有と意見交換を行いながら、11月 25日~26日に高知市にて三市社協の合同研修を行い、社協職員及び関係機関を含む42名 が参加した。令和4年度は奈良市で開催予定。

(10) 社会福祉法人との連携

高知市社会福祉法人連絡協議会は、法人が業種の枠を超えてつながり、地域住民が地域の中で安心して暮らせる取組を検討し、実施している。

令和3年度は、連絡協議会発足後、3年を経て、3部会を中心に個々の社会福祉法人がこれまでに培ってきた特性・専門性をつなぎ合わせ、複数法人間の連携による制度の狭間を埋める取組を展開した。

また、緊急的な経済支援が必要な生活困窮者等に対して支援を行う「くらしあんしん 応援事業」について検討を重ね、令和4年度から実施する。

① 相談窓口推進部会

高知市からの認定を受け、ほおちょけん相談窓口を開設している2法人(秦ダイヤライフ福祉会、土佐香美福祉会)が所在する一宮地区にて出張型の相談会を開催。企業(マルナカ)の協力を得てスーパーで開催することで、既存の取組では周知する機会の無かった層にも周知、広報する機会となった。

また、高知ひきこもりピアサポートセンターや「ほおっちょけん相談窓口」である薬局、地域包括支援センターや障害者相談センターにも協力も得ることで、子育て、障がい、高齢の各分野の相談に加え、お薬や生活困窮に関する相談にも幅広く対応できる相談会として開催することができた。

さらに、開催の時間帯や曜日を変更したことで、相談件数も増加しており、昨年に比べると多問題のケースや深刻なケースの相談に対応することが出来た。

② 災害対策連携部会

部会を通じて異種法人の現状及び取組を知ることにより、自法人における検討事項の 見直しや課題の検証に繋がっている。

また、高知県社会福祉法人経営者協議会が実施した「社会福祉法人における BCP (初級)研修会」に参加することにより、BCP未策定であった法人において策定に向けた取組が進んだもしくは完了となった。

令和3年11月には高知市内の社会福祉法人を対象に、「災害時に福祉が担う役割〜誰 一人取り残さない奇跡を起こす連携〜」と題して研修を行った。

③ 地域公益活動推進部会

部会の検討内容が多岐にわたっていることから、今年度は検討テーマを絞って部会運営を行うことで、具体的な活動の展開(保育園における福祉教育の機会づくり)に繋がっている。

④ 役員会及び職員研修会の開催状況

	【議案】①令和2年度事業報告・決算について
第1回役員会	②令和3年度事業計画及び予算(案)について
(5月11日)	③役員の選任(案)について
	④令和3年度総会(案)について
総会	【議案】①令和2年度事業報告・決算(案)について
, = = ,	②令和3年度事業計画及び予算(案)について
(書面開催)	③役員の選任(案)について
第2回役員会	【物業専作】 ムミルが副人民の下温について
(書面開催)	【協議事項】会長及び副会長の互選について
	【議案】①令和3年度高知市社会福祉法人連絡協議会拠出金
	について
第3回役員会	②令和4年度(仮称)生活困窮レスキュー事業の実
(12月14日)	施について(案)
	【報告】①高知市社会福祉法人連絡協議会部会活動報告につ
	いて

2. 地域住民が安心して暮らせる支え合いの仕組みづくり

高知市と合同で策定した「地域福祉活動推進計画」に基づき、支え合い・助け合いのある地域社会の実現に向けて、様々な専門機関や地域住民、各種団体等と連携・協働して、地域住民が安心して暮らせる支え合いの仕組みづくりに取り組んだ。また、福祉教育の実践やボランティアセンターの運営、共同募金の推進、地域生活課題に関する相談対応等を行った。

◆地域福祉コーディネーターの活動実績

種類	活動例	件数
個別支援	・ケース対応 (ケース会議)・専門機関や社会資源,ボランティアへの繋ぎ・見守り体制整備 ほか	217
地域支援	・住民主体の話し合いの場づくり ・コミュニティサロン等運営支援 ・社会資源開発,住民組織の立ち上げ支援 ・地域活動での計画周知や啓発活動 ほか	1,136
ボランティア活動支援	・ボランティアコーディネート・ボランティア登録,育成 ほか	192
福祉教育	・ほおっちょけん学習 ほか	116
関係機関との連携強化	・地域、多職種等との連携強化・地区民生委員児童委員協議会定例会出席 ほか	516

※地域福祉コーディネーター数:17人(1人欠員・令和4年3月末時点)

~ 「ほおっちょけん」のひとづくり ~

(1) 「ほおっちょけん」の住民意識づくり

① 高知市地域福祉活動推進計画の周知

市内の各圏域において、地域共生社会の実現に向けて高知市地域福祉活動推進計画の 周知を行った。

- ・計画の説明 89回 (延べ524人)
- ・地域福祉コーディネーターの説明 331回(延べ2,578人)
- ・ボランティアセンターの説明 51回 (延べ274人)

② ほおっちょけんツールを活用した情報発信

ほおっちょけん学習やふれあい体験学習等を受講した、高知市内の小中学校等の児童 生徒等へ啓発のため「ほおっちょけんシール」を4.426枚配布した。

また、新たに「ほおっちょけん絆創膏」を啓発のため作成し、配布した。

(2) 「ほおっちょけん学習(福祉教育)」の拡充

① ほおっちょけん学習の開催

保育園1か所,小学校6校,企業等で延べ706人に対して「ほおっちょけん学習」を実施。 また、地域住民延べ38人も学習会に招き、一緒に啓発活動を行った。

今年度初めての取組として、高知県立交通安全こどもセンターにおける「ほおっちょけん学習」の実施。多世代が集う『公園』で学習を実施することで、様々な世代への広報・啓発を実施。<参加者>7組23名(子ども14名、大人9名)

また、国際中学校・高校、春野高校や平成福祉専門学校等においてもボランティアの学習等の授業を地域福祉コーディネーターが担当、高知西高校「グローカル探求Ⅱ」(2年生対象)で福祉をテーマに探求する学生に地域福祉コーディネーターがスーパーバイザーとして協力する等、福祉教育を実践。福祉教育推進マニュアル「ほおっちょけん学習のススメ」(令和4年1月)や、国際中学校の学生が作製協力したほおっちょけん学習の PR 動画等の啓発ツールを作成し、ほおっちょけん学習に関わる人材の共通理解を進めた。

② ほおっちょけん学習サポーター養成講座の開催

ほおっちょけん学習のねらい等について学び、他地区でのほおっちょけん学習の実施 内容の共有や自分たちの活動の振り返り、これからの工夫等について検討を行うことで、 地域展開に向けた人材を養成。(延登録者数:74名)

_ ,			
開催月	場所	参加者	登録者
9月	ほおっちょけん学習サポーター養成講座 (下知)	15名	
11 月	ほおっちょけん学習サポーターフォローアップの会(介良)	4名	
11 月	ほおっちょけん学習サポーター養成講座(潮江)	1名	25 名
12 月	ほおっちょけん学習サポーターフォローアップの会(介良)	7名	
1月	ほおっちょけん学習サポーター養成講座 (朝倉)	8名	

③ 企業向けほおっちょけん学習の実施

民間企業4社に対してもほおっちょけん学習を実施した。「人材・スキル・物資などの会社の資源を地域のために活用できないか?」「本業に支障がなく,長く続けられる地域貢献の方法は?」といった企業の疑問に対するヒントを紹介するとともに,それぞれの企業の現状に沿った地域・社会貢献の取り組みを一緒に考えた。

(3) 活動につながるきっかけづくり

① 活動につながる情報提供

ボランティア登録者には2か月に1回,ボランティア活動の情報紙を発送している。 その情報により10件がボランティア活動へつながった。ボランティア情報とともに,新型コロナウイルス感染症の感染拡大に注意しながら地域活動を絶やさずにつながり続けることができるように,地域活動の紹介を中心とした情報発信も行った。

また一方で、緊急事態宣言の時期はボランティア登録者へ活動自粛を呼びかけた。こうち笑顔マイレージの受入施設は、緊急事態宣言解除後も外部からの立ち入りを制限する施設が多く、ボランティアを受け入れる環境になかった。

② ボランティア登録者の増加

◆福祉委員数

年度	取組地区数	委員数(名)
令和3年度	13	139
令和2年度	13	143

◆気くばりさん登録者数

年度	登録者数(名)
令和3年度	568
令和2年度	559

③ 気くばりさん・福祉委員登録者の研修

既存の登録者のフォローアップ研修を開催する予定にしていたが、新型コロナ感染症 予防のため中止した。

④ 大学生等の若い世代と協働

地域福祉活動や街頭募金活動等を大学生や専門学生に情報提供し、ボランティアマッチングを実施した。

また三里中学校,国際中学校にてボランティア研修を実施後,地域のボランティア活動にマッチング。街頭募金への参画や,生活支援ボランティアと協同した資源ごみ出し等の活動を行った。

⑤ 高齢者等の社会参加の促進

こうち笑顔マイレージボランティアの登録者が登録施設でのボランティアにとどまらず、地域での困りごとへのちょっとしたボランティアへつながるよう情報提供を行った。 生活に関するちょっとした困りごと等をお手伝いする生活支援ボランティア27名を養成した。(総数74名)

⑥ 行政等の人材養成事業を活用した啓発による新たな担い手の発掘

高知市老人クラブ連合会の会報(8,000部発行)にて、こうち笑顔マイレージの内容を記載して周知を図った。

(4) 担い手がいきいきと活躍できる環境づくり

① ボランティア団体への支援

◆ボランティア活動保険の加入者数

年度	団体数	加入者数(名)
令和3年度	76	5,088
令和2年度	98	4,831

② ボランティアのニーズ受付

ボランティアに関する相談 44件

③ ボランティアのマッチング

寄せられた相談に対して気くばりさんやマイレージボランティアをマッチング 81件

(5) 担い手の活動を支える

① 自主グループの活動支援

新型コロナ感染症予防のため中止した。

② こうち笑顔マイレージ事業

高知市在住の65歳以上の住民が、ボランティア活動や健康づくり活動に取り組むことで積極的に介護予防及び地域に貢献することを奨励、支援を行った。

	ボランティア活動		ボランティア活動 健康づくり活動		介護予防活動支援推進事業	
	受入施設	登録者数	登録会場	登録者数	登録会場	助成金交付会場
令和3年度	175	229	362	8,269	307	277
令和2年度	173	264	360	8,210	318	279

~ 「ほおっちょけん」のまちづくり ~

(1) 地域福祉活動推進

各種会議への参画

各専門機関等との定期的な意見交換や日頃からの協議等通して、役割分担や今後のかかわり等について共通理解を深めている。特に、地域福祉コーディネーターと同様に地域づくりをコーディネートする機能を持つ地域包括支援センターとは、目的や機会を共有することで協働した好事例も生まれている。

- ・関係機関との情報交換(地域包括支援センターブロック会他):43回
- ・地域ケア会議:44回 ・認知症サポーター養成講座での協働:4回
- ・障害者相談センターとの意見交換:28回
- ・スクールソーシャルワーカーとの意見交換:8回 ・個別支援分野との連携:219件

(2) ひとがつながる場づくり

① 立ち上げ及び運営支援

◆小地域での集いの場(箇所数)

区分	令和3年度	令和2年度
百歳体操	362	365
子育てサロン	18	20
サロン (高齢・障害)	86	88
認知症カフェ	27	24
子ども食堂・子どもの居場所	35	36

◆地域利用施設「クルム」の利用状況(令和3年4月~令和4年3月)

子どもに関	子どもに関する活動		いきいき百歳体操		可会役員会等)
利用日数	延人数	利用日数	延人数	利用日数	延人数
93	560	15	119	9	51

地域利用施設「クルム」は、高知市朝倉地区で本協議会に寄贈された住宅を地域住民 と関係団体で構成している運営委員会を運営主体としてオープンし、NPO主催の子ども 食堂等を定期開催するなど交流する場として活用している。

② 施設の空きスペースの有効活用に向けた検討

障害者支援団体と地域のボランティア団体がつながり、食の支援を必要としている方達へ食品を無償で届けるフードパントリーを開設。地域福祉コーディネーターの働きかけにより、施設の空きスペースの有効活用と地域住民からの寄付による好循環が派生している。

(3) 身近な生活の困りごとについて考える"話し合いの場"づくり

ほおっちょけん相談窓口に寄せられる困りごと等を課題解決に向けて検討できる仕組 みとして,ほおっちょけんネットワーク会議を実施(一宮,江ノ口西,秦,初月)

「話し合いの場づくり」の取組に関しては、地区の団体代表者等に働きかけを行っているが、今年度においても度重なる新型コロナウイルス感染症の影響により、会議や集いの定例開催の自粛等もあり、取組の展開が厳しい状況となっている。

(4) 多様な主体のつながり

① 地区社会福祉協議会連合会による情報交換会・研修会等の開催支援

地区社会福祉協議会連合会による研修会等の開催を企画したが、新型コロナウイルス感染症の影響による開催中止。世話人会は2回開催した。

② 福祉委員交流会の実施

新型コロナウイルス感染症の影響により開催を中止した。

(5) 地域の生活の困りごとの解決に向けたつながりづくり

① 『ほおっちょけん相談窓口』運営支援

住民の身近な圏域に、地域の生活の困りごとの相談を包括的に受け止める場として開設された『ほおっちょけん相談窓口』(59か所)に毎月訪問し、様式の回収や状況の確認を行った。

また,令和4年度から新たに開設予定の地域の各種団体や関係機関等への説明や協議, 民生委員・児童委員,町内会へのアンケート調査を実施した。

- ・高知市社会福祉法人連絡協議会の取組として「出張ほおっちょけん相談窓口」を開催し、窓口の広報、啓発を実施。(相談件数20件、チラシ等広報物300セット配布)
- 相談件数 92件(令和3年4月~令和4年3月)

② 住民が主体的に地域の中で課題解決できる仕組み

相談窓口に寄せられる地域の生活の困りごと等を課題解決できる仕組みとして「ほおっちょけんネットワーク会議」を地域に提案し、一宮地区、江ノ口西地区、秦地区、初月地区で実施した。

また、相談窓口に寄せられたちょっとした地域の困りごとに対応する生活支援ボランティアを旭地区、一宮地区、三里地区、秦地区にて養成した。養成人数27名(総数66名)

新たなモデル地区に対する支援として、相談窓口に寄せられる課題や住民が日常的に 見聞きする困りごと等について住民とともに学び・検討する場づくりに向けて"わが町 ならでは"の取組を支援。



③ 地域福祉活動に関する助成金活用の支援

高知市地域福祉活動推進計画を推進するため、福祉のまちづくり事業と地区社協活動助成事業の助成を地区社協に対して行った。

◆地区社協活動助成事業助成状況

年度	申請地区数	助成金額(円)	助成の主な内容
令和3年度	8	133,409	*見守り体制の構築に係る費用
令和2年度	7	140,558	*拠点整備に係る費用 等

◆ふくしのまちづくり事業助成状況

年度	申請地区数	助成金額(円)	助成の主な内容
令和3年度	19	1,588,000	*高齢者への配食サービスに係る
令和2年度	19	1,825,000	費用等

~ 地域福祉を推進するための体制基盤 ~

(1) キャリアパスの運用による計画的な人材育成

【OJTの実施】

入職2年未満の職員を対象に「フォローアップ研修」を実施し、職員が学び合う機会づくりをした。

【OFF-JTの実施】

高知県市町村社協連絡会、高知県社協主催のコミュニティソーシャルワーカー養成研修を受講した。

【自己啓発の実施】

キャリアパスと自己啓発カードを連動させ、目指す地域福祉コーディネーター像を 明確にするとともに、個人の課題を自ら考え目標設定をすることができた。また、社 会人基礎力自己チェックシートを実施した。

(2) 職員の資質向上と体制強化(地域支援事例検討会)

地域福祉コーディネーターの資質向上を目的として、外部からスーパーバイザーを招き、地域事例を踏まえながら今後の取り組みを考えていく地域支援事例検討会を開催した。

◆地域支援事例検討会

開催月	テーマ	参加者
4月	生活困窮者自立支援事業について	12
5月	赤い羽根共同募金について	15
6月	学びの場をつくるための活用プランづくり	14
7月	ほおっちょけん相談窓口等の個別事例を通して地域支援を考える検討会	15
8月	ほおっちょけん相談窓口等の個別事例を通して地域支援を考える検討会	16
10 月	高知西高校 2 年生探究学習中間発表	15
11 月	高知大学地域協働学部稲生班による発表	14
1月	福祉学習について	17
2 月	話し合いの場づくりにむけた CSW のはたらきかけ	15

~ 共同募金事業の推進 ~

都道府県単位で年1回厚生労働大臣の定める期間内に限り寄付金の募集を行い、その区域内における地域福祉の推進を図るため、その寄付金を区域内の社会福祉事業、更生保護事業、その他社会福祉を目的とする事業を経営する者に配分した。

① 委員会移行に伴う各地区委員会の会則支援

各地区分会における各地区委員会の会則の改正及び策定等の支援を行った。

② 高知市共同募金委員会助成事業の実施

令和4年度助成に向けて高知市共同募金委員会審査委員会を実施。新型コロナウイルス感染症の影響のため、書面にて審査を行った。

・申請件数 18件 申請額 2,363,000円 ・決定件数 18件 助成額 1,959,000円 内訳:高知市広域福祉活動支援事業 9件 1,171,000円

小地域福祉活動支援事業 9件 788,000円

③ 共同募金推進計画(助成計画含む)の策定

委員会移行に伴い,中長期計画とした共同募金推進計画の策定に向けて検討してきたが,年度内の策定に至らなかったため,継続して策定に向けて検討していく。

④ 高知県共同募金会の地域力増進特別助成事業を活用した事業の実施

高知県共同募金会助成金を活用し、共同募金事業の啓発を行うとともに地域福祉活動 推進計画に基づき以下の事業を実施した。

- ア. 赤い羽根お仕事応援プロジェクト
- イ. 高知市社協の取り組みを知ってもらおう!プロジェクト
- ウ. 「ほおっちょけん」啓発事業
- エ. 「ほおっちょけん」の仲間づくり~ボランティアセンター機能強化事業~
- オ. 「ほおっちょけん」災害対策事業
- カ. ほおっちょけん学習プロジェクト
- キ. 地域をよくするプロジェクト~広がれ!赤い羽根の輪~

⑤ 参考資料

◆募金実績額

区分	令和3年度(円)	令和2年度(円)
一般募金	28,942,302	29,613,773
歳末たすけあい募金	11,598,596	11,658,880
合計	40,540,898	41,272,653

◆会議研修等

実施日	会議			
9月21日	令和3年度 第1回高知市共同募金委員会運営委員会(書面審議)			
動画配信	高知市共同募金委員会研修会			
3月10日	令和3年度 高知市共同募金委員会審査委員会(書面審議)			
3月28日	令和3年度 第2回高知市共同募金委員会運営委員会(書面審議)			

~ その他の事業 ~

① 各種助成事業の実施

ア. 名士チャリティ色紙展収益金の通所型事業所等への助成

県内外の著名人等のご協力により名士チャリティ色紙展示入札会を開催し、その収益 金を、在宅で生活する障害者に就労の機会を提供する事業所等に助成した。

◆令和3年度名士チャリティ色紙展示即売会:令和3年12月4日・5日

◆色紙売上状況

年度	販売枚数(枚)	金額(円)
令和3年度	260	6,800,970
令和2年度	283	5,004,563
令和元年度	331	3,958,810

◆令和3年度助成状況

令和3年11月30日に事業部収益金配分委員会を開催し、6事業所に総額841,000円を助成した。また、障害者事業所のみならず、地域福祉活動の推進に寄与する事業へも助成できる仕組みを作り、総額101,814円を助成した。

イ. 各種団体等の活動への支援

- *高知市老人クラブ連合会:囲碁大会,連合会運営費への助成
- *障害者団体:高知県肢体障害者協会(車いす用リフトバス助成)
- *高知市青少年育成協議会・高知市青蘭会・高知市ボランティア連絡会:活動助成

ウ. まごころ銀行からの助成

まごころ銀行に預託していただいた預託金をもとに、下に記載の2つの助成の他に、新型コロナウイルス感染症の影響により施設のイベント中止等自粛を強いられている子ども達に、何か喜んでもらえるようにと願い、まごころ銀行から5カ所の児童養護施設へ総額801,000円を助成した。

- *ひとり親家庭新入学児童を祝う会(小学生3名)
- *施設児童生徒の修学旅行助成金(小学生11名・中学生14名)

② 福祉機器等の貸出し

市民や各団体から寄贈された福祉機器等を,介護保険制度によるサービスを受けられない市民等を対象に,無料で短期間(原則1か月)の貸出しを行い,在宅生活を支援した。また,地域の祭りやイベント等で使用するため,地域の団体等に綿菓子機,かき氷機の貸出しを行った。

◆貸出状況

	車いす	綿菓子機	かき氷機	その他
件数	43	0	1	0

③ 無料法律相談の実施

法テラス高知と協力し、毎月末に本協議会の相談室にて無料法律相談を行った。

3. 地域住民が自立した生活を営むことができるための権利擁護体制の確立

(1) 成年後見サポートセンター事業

成年後見制度や日常生活自立支援事業に関する問合せや、権利擁護に関する様々な相談が寄せられた。また、生活困窮者支援や障害者相談支援等との社協内連携による対応事例も増加している。課題解決が困難な事例に対しては、関係機関・行政と連携した支援を実施し、解決に向けた支援を行った。

また、成年後見制度利用促進計画に基づいた中核機関受託に向け、高知市と協議を行った。

① 初期相談

カコサロナロ⇒火 / / 米/-	令和3年度	令和2年度	累計 (事業開始~)
初期相談件数	397	390	5,135

①-1 初期相談における相談者内訳

相談者	本人	親族	知人	後見人等	関係機関	その他	合計
件数	61	67	10	3	244	12	397

①-2 相談に至る理由(複数計上)

相談に至った理由	件数	相談に至った理由	件数
身元保証人がいない	15	権利侵害	7
入院・入所手続きが必要	2	市民後見人受任	1
相続手続き	5	出前講座	5
財産管理	17	将来の不安	55
福祉サービスの利用手続	2	成年後見制度	111
定期預金の解約	3	これからあんしんサポート事業	51
保険手続き	4	その他	84
日常的な金銭管理	124	合計	486

①-3 初期相談における相談対象者の年代内訳

年代内訳	件数	年代内訳	件数
20歳未満	6	70代	75
20代	9	80代	78
30代	10	90代以上	20
40代	11	年齢不明	74
50代	24	対象者なし	60
60代	30	合計	397

①-4 初期相談における相談対象者障害区分内訳

障害区分内訳	件数	障害区分内訳	件数
認知症	64	判断能力あり	43
知的障害	42	状況不明	91
精神障害	61	対象者なし	57
その他の疾病や障害	39	合計	397

② 法人後見受任状況

関係機関と連携・協力し、本人に寄り添った支援を心がけ、対応困難なケースについて は高知市成年後見サポートセンター運営委員会にて協議し、助言を受け支援に努めた。

件数	類型	後見	保佐	補助	後見 監督等	未成年 後見	合計
平成18年4月	延受任数	21	5	0	8	2	36
【法人後見開始】から	延終了数	13	0	0	5	1	19
令和2年度末まで	実受任数	8	5	0	3	1	17
令和3年度	新規受任数	0	1	0	1	0	2
740千度	終了数	2	0	0	0	1	3
	延受任数	21	6	0	9	2	38
令和3年度末累計	延終了数	15	0	0	5	2	22
	実受任数	6	6	0	4	0	16

③ 広報·啓発活動(出前講座等)

関係機関や地域住民に対して、成年後見制度や日常生活自立支援事業、これからあんしんサポート事業などの権利擁護に関する出前講座を実施し、他機関の視察受入れや講師派遣を通して広報啓発を行った。また、サポートセンターだよりを発行して、サポートセンターの活動に対して広報を行った。

◆事業啓発

日程	日程 テーマ		食者 (出前先)	人数
4月12日	日常生活自立支援事業とこれから	西部地区	居宅介護支援事業所	60名
4月12日	あんしんサポート事業の概要		ブロック会	60 泊
4 🗆 15 🗆	成年後見制度とこれからあんしん	i d	五二十十十分	40 F
4月15日 サポート事業について		瀬戸女性学級 40		40名
₹ □ 00 □	これからあんしんサポート事業	南部地区	居宅介護支援事業所	00 8
5月20日 について			ブロック会	30名
1 1 17 1	子左後月別座について	西部地区	居宅介護支援事業所	40 F
1月17日	成年後見制度について		ブロック会	40名
令和3年度合計件数・参加者			4件・170名	7
	令和2年度合計件数・参加者		3件・40名	

◆講師派遣

日程	テーマ・開催概要	依頼元 (対象者)
4月28日	日常生活自立支援事業における具体的な支援例	高知県社会福祉協議会 (新任専門員)
7 H 00 H	日常生活自立支援事業における支援活動の実際	高知県立大学
7月28日	~社会福専門職として~	(学生)
11月16日	死後事務や身元保証に関する支援	長崎県社会福祉協議会
11月16日	~これからあんしんサポート事業について~	(市町村社会福祉協議会)

◆視察受け入れ

日程	視察内容	依頼元 (対象者)
7月13日	これからあんしんサポート事業について	四万十市社会福祉協議会

④ 市民後見人材育成

第6回市民後見人養成講座を7日間開催し、9名が受講、7名が全講座を修了した。また、令和元年度までの市民後見人養成講座修了者に対して、実務実習を開催し、1名が市民後見人材バンクに登録となった。現在、登録者のうち4名が市民後見人として活動している

人材バンク登録者に対して行っているフォローアップ研修は、新型コロナウイルス感染症の影響で開催を中止したが、現任の市民後見活動に対しては後見監督人として活動支援を行った。

◆市民後見人材バンク登録者数

令和3年度	令和2年度まで	登録辞退者	実登録者数
1名	29名	11名	19名

⑥ 関係機関との連携

成年後見制度を円滑に活用できるよう,支援会議を月一回程度開催し,成年後見事業を 担当する行政職員や地域包括支援センター職員,弁護士等と困難ケースの検討を行った。

相談支援機能の充実を目的に、成年後見制度・日常生活自立支援事業調査研究会に参加し、各専門職団体・行政とのネットワーク構築に努めた。

また、家庭裁判所主催の成年後見制度利用促進に向けた連絡協議会へ参加し、行政機関、専門職団体等とそれぞれの現状の報告や情報共有を行った。

成年後見制度利用促進計画策定への協力を行い、令和4年4月、中核機関受託に向け、 スムーズに業務を行えるよう、高知市の担当課と中核機関の機能、役割等について協議を 行った。

(2) 日常生活自立支援事業

認知症や知的障害,精神障害等により判断能力が不十分な方に対し,自立した地域生活が送れるよう福祉サービスの利用援助や日常的金銭管理等の支援を行った。初回相談件数86件のうち17件が日常生活自立支援事業の契約につながった。また,契約終了は18件で,解約理由は本人死亡7件,成年後見人等への移行5件,本人申出6件(内,2件が保佐人等に繋がった)であった。

① 相談・援助件数

対象	本事	事業の利用	に関するも	₀ の			
事項	認知症 高齢者	知的 障害者	精神 障害者	その他	その他	合 計	令和2年度
問合せ件数	0	0	0	1	0	1	1
初回相談件数	34	12	27	13		86	119
相談援助件数	2,319	1,912	2,226	359		6,816	5,981
合計	2,353	1,924	2,253	373	0	6,903	6,101

※ 問合せ件数は、制度や事業についての問合せ

② 契約件数

区分		認知症 高齢者	知的 障害者	精神 障害者	その他	合計
令和3年度末	契約数	5 3	70	44	8	175
令和2年度末	契約数	57	71	33	15	176

③ 年度別契約件数

区分年度	平成11年度~平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	累計
契約者	483	27	24	17	551
解約者	302	33	24	18	377
年度末	181	176	176	175	

④ 成年後見制度への移行

判断能力の低下などにより日常生活自立支援事業の継続が困難となった利用者7名に対し、成年後見制度へ繋ぐ支援を行った。

(3) これからあんしんサポート事業

単身世帯等で頼れる親族がいないことによる生活課題に対し、本人が判断できる間に、 高知市社会福祉協議会と契約することにより、認知症などによる判断能力が低下した場合 の権利擁護支援や死後事務委任契約による死後の支援を行う。

令和3年度は、事業開始以来初めて、死後事務委任契約に基づいた「死後事務」を行った。また、契約者の判断能力低下により、成年後見制度への移行支援を行った。

① 初期相談件数について

/ 11 / / 11 / / 1 / / 1 /	令和3年度	事業開始(平成29年4月)からの累計
初期相談件数	35	366

①-1 初期相談における状況について

◆相談者の状況

相談者	本人	家族・親族	友人・知人	関係機関	その他	合計
件数	11	1	1	20	2	35

◆相談内容

相談内容	事業に 関すること	事業利用に 関すること	講師派遣	視察	その他	合計
件数	10	22	0	0	3	35

② 契約者数

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	合計
新規契約者数	2	1	1	4	2	10
契約終了者数	0	0	0	0	1	1
年度末契約者数	2	3	4	8	9	

(4) 生活福祉資金貸付等事業

低所得,障害・高齢者世帯を主な対象として,資金の貸付と必要な相談支援を行った。また,新型コロナウイルス感染症の影響による特例貸付(緊急小口資金,総合支援資金)は,受付期間が数回延長され,令和3年度累計で約1万8千世帯,総額約74億円の貸付を行った。緊急対応が必要な世帯に対しては,生活支援相談センターと連携を図り,食糧支援等を行った。

一方,従来の生活福祉資金の申請は、家電製品や教育支援資金等が主であり、昨年同様、 生活保護受給世帯やひとり親世帯が多かった。高知市生活福祉資金調査委員会については、 社会情勢の変化や従来の貸付件数の減少などから各委員と協議を行い令和3年度末で廃止 した。

① 月別相談件数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
2,273	2,965	3,192	2,777	3,740	2,224	
(3,725)	(3,430)	(2,242)	(2,093)	(2,000)	(1,818)	90 EC7
10月	11月	12月	1月	2月	3月	28,567 $(25,050)$
2,307	2,652	1,822	1,323	1,386	1,906	(25,050)
(1,315)	(1,298)	(1,544)	(1,313)	(1,899)	(2,373)	

※()は令和2年度件数

② 生活福祉資金貸付状況

	74 m 74 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	令	和3年度	令	和2年度
	資金種別	貸付 件数	貸付申請 受理金額	貸付 件数	貸付申請 受理金額
	生 活 支 援 費	0	0	0	0
総合支援	住 宅 入 居 費	0	0	0	0
資 金	一時生活再建費	0	0	0	0
	小 計	0	0	0	0
	福祉費	26	8,115,000	23	5,940,000
福祉資金	緊急小口資金	5	457,000	11	1,012,000
	小 計	31	8,572,000	34	6,952,000
 教育支援	教 育 支 援 費	24	17,869,000	12	5,486,000
製 目 又 饭 資 金	就 学 支 度 費	2	786,000	15	5,827,000
東 並	小 計	26	18,655,000	27	11,313,000
不動産担	不動産担保型生活資金	0	0	0	0
不 期 座 担保 型生 活 資 金	要 保 護 世 帯 向 け 不動産担保型生活資金	0	0	0	0
工伯貝並	小 計	0	0	0	0
	小 計	57	27,227,000	61	18,265,000

※ 令和3年10月より就学支度費は教育支援費として計上

			令和3年度末時点		令和2年度末時点	
	資金種別	貸付	貸付申請	貸付	貸付申請	
		延件数	延受理金額	延件数	延受理金額	
	緊急小口資金 (※再貸付分含む)	6,773	1,188,790,000	5,117	879,750,000	
新型コロナ	総合支援資金	5,059	2,650,640,000	3,710	1,943,280,000	
特例貸付	延長	2,990	1,568,050,000	2,393	1,252,750,000	
	再貸付	3,668	1,942,370,000	1,743	910,810,000	
小 計		18,490	7,349,850,000	12,963	4,986,590,000	
	合 計	18,547	7,377,077,000	13,024	5,004,855,000	

(5) 高知市障害者相談支援事業

高知市北部地区在住の障害児・者やその家族等を対象に、総合相談窓口として、生活上の困り事への対応と自立に向けた支援を行った。

相談者の傾向は、約4割以上が発達障害や精神障害がある方で、相談内容は福祉サービス(福祉的就労)に関する相談が多かった。

また、障害があるひとり親の世帯支援や配偶者暴力などの複合的な課題について、多機 関と連携し、課題解決に向けて取り組んだ。

障害児支援における連携強化等を目的にこども発達支援センター(高知市)との意見交換会を行った。

◆相談実績

区分	令和3年度	令和2年度
相談者数	600	807
新規相談者数	363	330
セルフプラン作成支援数	90	107
特定相談支援事業所紹介件数	52	58

◆障害種別及び対応件数

	令和:	3年度	令和:	2年度
障害種別	対応件数(363 名)		対応件数(330名)	
	障害児 117 名	障害者 246 名	障害児 118 名	障害者 212 名
身体障害	0	36	0	35
重症心身障害	0	1	1	0
知的障害	12	33	17	29
精神障害	6	94	6	99
発達障害	30	20	76	15
高次脳機能障害	0	4	0	3
難病	0	2	0	5
身体・知的	0	0	1	1
身体・精神	0	4	0	1
知的•精神	1	3	1	0
知的·発達	2	3	5	0
その他	4	2	0	2
匿名・詳細不明	62	44	11	22

[※] 令和3年度より障害疑いの方は「匿名・詳細不明」にて計上

◆相談支援内容

支援の内容	令和3年度	令和2年度
福祉サービスの利用等に関する支援	1,643	2,184
障害や病状の理解に関する支援	495	738
健康・医療に関する支援	356	352
不安の解消・情緒安定に関する支援	563	1,003
保育・教育に関する支援	90	131
家族関係・人間関係に関する支援	240	205
家計・経済に関する支援	201	253
生活技術に関する支援	95	174
就労に関する支援	266	394
社会参加・余暇活動に関する支援	25	53
権利擁護に関する支援(虐待相談含む)	48	26
住居支援	76	85
その他	72	56
合計	4,170	5,654

(6) 障害支援区分認定調査

障害支援区分認定調査では、障害の特性に配慮し、公正中立な調査に努めた。

◆認定調査実績

区分	令和3年度	令和2年度
更新	861	818
区分変更	27	15
新規	123	56

(7) 生活困窮者支援(高知市生活支援相談センター)

① 自立相談支援事業

生活困窮者自立支援法に基づき、相談者の複合的な課題に対して、本人の意思を十分に確認することを通じて、個々の状況に応じた支援計画を作成し、関係機関と連携した包括的支援に努めた。

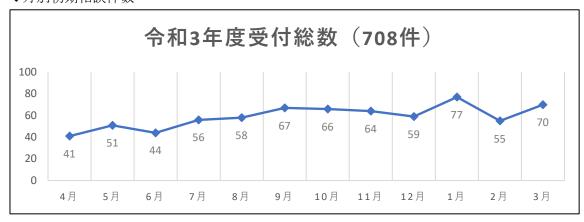
令和3年度も前年度から引き続き,新型コロナウイルス感染症の影響を受け住居確保給付金の対象者が拡充されたことに伴い,令和元年度から開始された特例貸付の受付と併せて困難な状況に置かれる生活困窮者の相談対応を行い,必要な支援・制度へのつなぎを実施した。体制的に厳しい状況であったが,コロナ禍の中で生活の困りごとを複合的に抱えている方に対して,高知市東西南北のエリアを担当する相談支援員が問題解決に向けて相談者に寄り添い,自立のための支援を行った。

一方で、経済的困窮世帯の支援においては生活保護制度に対するスティグマなどの問題から第2のセーフティネットから再度狭間に陥ってしまうケースが見受けられ、今後、より伴走型の関わりと各制度における柔軟な対応が求められる。

ア. 初期相談件数(※本人特定ケース: 初期相談受付後にセンターへ来所等で本人を特定できたケース)

	受付総数	受付総数	本人特定ケースのうち、相談経路内訳			
	(本人未特定 ケース含む)	(本人特定ケー ス※のみ)	本人	家族・知人	関係機関等からの紹介	その他
件数	708	498	423	26	49	0

◆月別初期相談件数



イ. 男女比率(本人特定ケース 498件)

사무무대	男性	女性	その他
生力リ	264	231	3

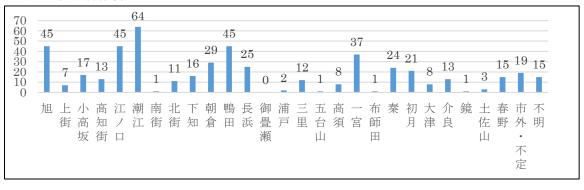
ウ. 年代別(本人特定ケース 498件)

	10代	20代	30代	40代	50代
	2	47	59	82	90
ĺ	60代	70代	80代	90代	不明
ĺ	63	72	28	5	50

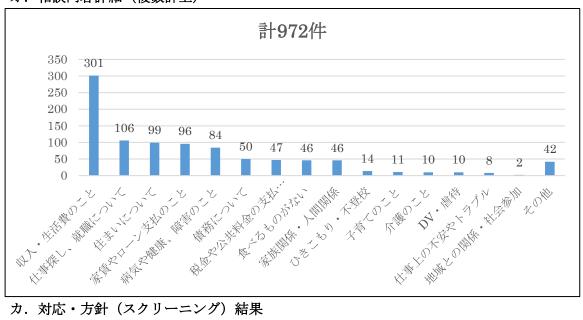
エ. 地区別相談件数(本人特定ケース498件) ___

エリア別	東	西	南	北	市外	不明
- エッノ 別	72	140	107	145	19	15

◆地区別相談件数分布



才. 相談内容詳細(複数計上)



カ. 対応・方針 (スクリーニング) 結果

	スクリーニング実施ケース数	569
	情報提供・相談対応のみで終了	230
	他制度・他機関等へのつなぎ	218
内	本人未同意、同意に向けて取り組む	13
訳	継続支援し、プラン策定	106
	スクリーニング判断前に中断・終了	2

キ. 自立相談支援事業において継続支援を行う上で本人と作成する支援計画 策定状況

支援プラン策定件数	182	
th∃n	新規プラン策定	76
内訳	再プラン策定	106
令和3年度中の	202	
	再プランして継続	106
内訳	中断	2
	終結	94

クー就職実績

グ・心脈天順			
支援対象者	前年度から引継ぎ	46	77(※男女比 45:32)
义1反刈 豕 日	令和3年度	31	11 (公方女儿 45.52)
十極社田	就職決定		33 (※男女比 20:13)
支援結果	就職前終結		20
(計 77 名)	就職活動継続中		24
	支援辞退		15
終結理由	体調不良		1
(計 20 名)	生活保護		1
	その他の理由(転出等)		3

ケ. 就職決定後のフォローアップ

支援対象者	前年度から引継	23	33
义	令和3年度	10(就職決定者)	აა
十極公田	就労定着(6カ月間以上継続)	20
支援結果 (計 33 名)	定着支援	4	
(計 33 名)	※就労定	9	
	定着支援(アフタ	'ーフォロー)を希望せず	6
終結理由		支援辞退	1
(計9名)	離職	体調不良	1
		生活保護	1

コ. 対象者年代(全77名)

	全体	就職決定者	決定率
10~20代	8	4	50%
30代	15	9	60%
40代	21	10	48%
50代	19	7	37%
60代	8	2	25%
70 歳以上	6	1	17%

サ. 就労先業種内訳(就職決定者33名)



シ. 離職理由 (離職者3名の内訳)

業務内容	1
人間関係や職場環境	1
体調不良	1
その他	0

令和3年度は令和2年度からの引継ぎケースを含め計77名の対象者に就労支援を実施し、33名を新規就労へつなぎ定着支援まで関わっている。同意が得られたケースは積極的に生活保護受給者等就労促進支援事業へつなぎ、ハローワークナビゲーターと連携し本人の早期就職をサポートした。また、本人のペースで就職活動を進めたい希望があれば、自立相談支援員が本人の就職活動を伴走支援してきた。

対象者の抱える就労阻害要因は様々だが、共通して経済的な困り感を抱える方は多く、 コロナ特例貸付や家賃給付制度等を組み合わせて活用してもらい支援している状況。新型 コロナウイルス感染症の影響を受けた離職や減収による就労支援対象者は比較的就労経験 があることと経済的な問題から就労意欲が高く、短期で就職決定につながっているが、障 がいが疑われる方や経験不足、長期のブランクなどを抱えた方は活動期間が長期化してい る。

② 住居確保給付金

自立相談支援事業における相談者のうち離職・廃業から2年以内または休業等により収入が減少し、離職等と同程度の状況にある方に対し、就労支援と併せて一定期間の家賃相当額を高知市より給付することにより、自立を目指した支援を令和3年度も継続して行った。

令和2年度が相談件数2,123件のうち,567件の新規申請を受理したことに対し,令和3年度は相談件数418件のうち,84件の新規申請を受理し,新規相談は徐々に落ち着いてきているものの,依然として多くの申請が寄せられた。

③ 一時生活支援事業

住居を失った生活困窮者に対し、シェルターへの受け入れを行い、緊急的に衣食住の提供を行うとともに、生活再建や就労自立に向け取り組んだ。

令和2年度の事業利用者の多くが新型コロナウイルス感染症による離職が原因だったことに比べると、令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響による相談は少なく、シェアハウスの同居人とのトラブルや同居家族や会社同僚からの暴力などの人間関係の悪化を理由に元住所から避難するために利用されるケースが多かった。

ア. 入居実績 ※シェルターA (3室), シェルターB (3室)

	シェルターA	シェルターB
入居件数	8件	4件
入居人数	8名	4名
一人当たり平均利用日数	68.4日	94.8日
合計利用日数	547日	379∃

イ. 入居者分類

表1. 年齡内訳

	. 419	
類型 年代	単身世帯	複数 世帯
20歳未満	0	0
20代~30代	4	0
40代~50代	6	0
60代~70代	2	0
合計	12	0

表2. 性別内訳 表3. 入居時の状況

性別	
男性	6
女性	6
合計	12

入居時の 所在地	件数	入居に至る 経緯	件数
高知市内	9	離職	1
高知市外	0	同居者との関係性	7
高知県外	3	家賃滯納	0
住所不定	0	ホームレス	2
合計	12	刑余者	1
		その他	1
		合計	12

表4. 退去後の状況別分類(令和3年度退去件数12件を分類)

件数
6
1
5
_

④ 家計改善支援事業

令和3年度は地域協働課と連携し、春野高校3年生を対象とした公的扶助に関する講話と家計表を用いたワークを2回実施した。

今後は、春野高校のみならず複数校で出前講座を実施できるよう検討していく。個別支援においては、キャッシュフロー表を用いたライフイベントにも配慮した長期での家計収支計画作成への取組みを始め、行政徴収部門との分納協議にも役立っている。

ア. 実績

対象者数	支援プラン作成件数	プランに至らなかった件数
31	24	7

イ. 支援内容(複数計上)

家計の整理に向けた支援	家計表作成や見直し	233 回
債務整理に向けた支援	法律相談同行	6 回
治、伊 吟虹の運動動理	分納計画の策定	14 回
税・保険料の滞納整理	市役所窓口への同行	12 回
	生活福祉資金	10 回
貸付その他の公的な制度斡旋	住居確保給付金	1回
	失業給付	0 回
金銭管理へのつなぎ支援	日常生活自立支援事業	3 回

⑤ 就労準備支援事業

一般就労が困難な方に対して、就労に向けた基礎能力を身につけることを目的に個人の 段階に応じたステップアップ方式の支援を実施した。令和3年度は、40代以上の新規対象 者が増え、計21名の対象者に対し支援を行った。職歴の有無にかかわらず、中長期的に社 会との関わりが途絶えている方が多い傾向にあったが、対象者の希望する働き方や職種に 対応できるよう、様々な分野の企業開拓を行った。その結果、製造業や小売店など新たに 8ヶ所の企業・団体が協力事業所として登録し、協力事業所は合計28ヶ所となっている。

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、集合型の活動を休止した期間もあったが、コロナ禍においても個人宅で活動ができるように体制を整え、就労に向けた支援を継続して行った。事業所内の仕事の切出しも積極的に行い、介護事業所の送迎車の洗車や年間カレンダーの作成・配布を行ったりと、作業内容の充実と、幅広い層への事業周知を図ることができた。

ア. 年齢・性別内訳

年代	男性	女性	合計
20代	0	2	2
30代	1	0	1
40代	3	2	5
50代	8	4	12
60代	0	0	0
70代	1	0	1
合計	13	8	21

イ. 支援状況 (※2名重複)

	就労決定	4
終結	生活保護受給	1
	本人による辞退	6
支援継続中		12

ウ. 就職状況 就職決定者4名

	仕事内容	雇用形態
1	一般事務	パートタイム労働
2	警備	派遣社員
3	清掃	パートタイム労働
4	清掃	パートタイム労働

⑥ 認定就労訓練事業

高知市認定生活困窮者就労訓練事業所としての認可を受け実施。令和3年度は6名を 130日間受入れ、就労への意欲向上に努めた。

⑦ 赤い羽根お仕事応援プロジェクト

認定就労訓練事業の報奨金の対象期間(3ヵ月)では、就労に結び付けることが難しいという課題に対し、それを補う形で令和元年度からプロジェクトを新設。赤い羽根共同募金の助成金から、追加で3ヶ月間報奨金を支払うことで、より長期的な支援を可能とした。

さらに職場体験プログラムとして、協力事業所内での実践的な中間就労(職場体験)の場を設け、実際の企業や事業所の中で働くことを体験し、相互理解を深めることで就労の継続を見据えた支援を行うことができた。協力事業所5ヵ所にマッチングを行い、1名が活動を通じて就職が決定し、現在も就労継続している。

また、令和3年度は初の試みとして就労ではない形で、企業や事業所での活動に社会参加する、社会的な居場所の開拓を行った。結果、2名がボランティアとして活動に参加することとなり、自宅以外の居場所ができたことで、社会的孤立の防止の一助となっている。

⑧ 無料職業紹介事業

生活困窮者への就労支援強化の一環で、独自開拓した事業所への雇用のつなぎが柔軟に 実施できるよう、令和2年1月に高知労働局から許可を受け、無料職業紹介事業を開設し、 令和3年度は、新たに3件の求人を登録・紹介し、3名とも採用となっている。

◆求職求人実績

求人業種	詳細	求職登録件数	職業紹介状況
一般事務	電話・来客対応を含む事務全般	・20 代女性	就職後6ヶ月経過し 就労定着
清掃	公共施設内のアルコール消毒作業	・40 代男性 ・40 代女性	継続就労中

⑨ 生活支援相談センター運営委員会

令和3年度は新型コロナウイルス感染症予防の観点から、6月は書面会議方式、3月は リモート方式にてそれぞれ定例開催した。運営委員には住居確保給付金の制度改正に伴う センター事業の状況を報告するとともに、コロナ禍におけるアウトリーチの取り組みや、 増加傾向にある生活困窮者への柔軟な対応について専門的立場からの意見をいただき事業 運営への反映に努めた。

こうちセーフティネット連絡会(参加団体 30 団体 52 部署)

令和3年度は新型コロナウイルス感染症予防の観点から、初めてリモートでの開催となった。各関係機関や団体がコロナ禍における独自の取り組みや様々な工夫をしつつ、支援を行ってきた現状の共有を図れるよう、"コロナ禍における支援"をテーマに4団体が設定事例に基づいた活動紹介をバトンスピーチ形式で行った。関係機関同士の横の繋がりや各機関の役割が再認識できる機会となった。

⑪ くらし何でも相談会

令和3年度は社福法人との連携や効果的なアウトリーチの取り組みについて地域協働課事務局と協議し、社会福祉法人連絡協議会の相談支援部会が開催する「出張ほおっちょけん相談窓口」への支援員派遣を実施した。

⑫ その他の支援

緊急一時的な食料品や物品の提供を行うことで生活安定までのつなぎ支援を実施した。 令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響下で特例貸付入金までの食事に困るなど, 生活に行き詰った相談者に対する対応が増加した。

◆食品

• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	
	件数
寄附	30
提供	139

◆物品

	/	件数	内容
寄付	Ļ	6	家電・日用消耗品等
提供	711	4	家電・食器類

4. 地域住民が住み慣れた地域で安心して暮らせるサービスの実施

介護保険及び障害福祉サービス指定事業者として、居宅介護支援事業、通所介護(生活介護 含む), 訪問介護等在宅福祉サービスを実施し、要援護者(高齢者及び障害者)の自立した生 活と社会参加の推進に努めた。

(1) 介護保険事業の推進

① 居宅介護支援事業の推進

居宅サービス等を適切に利用できるよう要介護者等の心身の状況、本人や家族の希望等 を受けて介護サービス計画を作成し、サービス確保のため事業者等との連絡調整等に努め た。

◆居宅介護支援事業延利用者数※予防:総合事業を含む

(単位:名)

事業所	土色	た山	春	野	合計		
年度	介護	予防	介護	予防	介護	予防	
令和3年度	455	91	498	247	953	338	
令和2年度	470	76	428	211	898	287	
増減	$\triangle 15$	15	70	36	55	51	

② 通所介護事業の推進

土佐山デイサービスセンター及び介護センターあじさい会館において、入浴、食事、機 能訓練等の各種サービスを実施し、在宅要援護高齢者に対する生活支援を行った。

◆通所介護事業延利用者数※予防:総合事業含む ※生きがいデイサービスを除く (単位:名)

事業所	土包	 上山	春	野	合計		
年度	介護	予防	介護	予防	介護	予防	
令和3年度	3,383	362	7,513	992	10,896	1,354	
令和2年度	3,832	328	7,474	1,277	11,306	1,605	
増減	△449	34	39	$\triangle 285$	Δ410	$\triangle 251$	

③ 訪問介護事業・介護予防訪問介護事業の推進

日常生活を営むのに支障がある要援護者(高齢者)に対してホームヘルパーを派遣し, 身体介護、生活援助等のホームヘルプサービスを行った。

◆ホームヘルパー派遣時間と回数【まるのうち事業所】

(単位:時間)

	介護						総合事業			
年度	派遣		派遣	時間		派遣		派遣	時間	
	回数	身体 介護	生活 援助	身体 生活	合計	回数	独自I	独自Ⅱ	独自Ⅲ	合計
令和3年度	2,018	500.25	953.5	757.75	2,211.5	1,873	822.25	663.75	384.5	1,870.5
令和2年度	2,571	659.75	489.5	1,407.75	2,557	1,946	827.75	652.5	444.75	1,925
増減	$\triangle 553$	$\triangle 159.5$	464	△650	△345.5	$\triangle 73$	$\triangle 5.5$	11.25	△60.25	$\triangle 54.5$

◆ホームヘルパー派遣時間と回数【春野事業所】

(単位:時間)

			介護			総合事業				
年度	派遣		派遣	時間		派遣		派遣	量時間	
	回数	身体 介護	生活 援助	身体 生活	合計	回数	独自I	独自Ⅱ	独自Ⅲ	合計
令和3年度	1,824	601.25	328.75	445.5	1,375.5	1,034	483.5	388.5	152.75	1,024.75
令和2年度	1,716	384.5	570.25	644.5	1,599.25	995	591.75	368	25	984.75
増減	108	216.75	$\triangle 241.5$	△199	$\triangle 223.75$	39	△108.25	20.5	127.75	40

(2) 障害者総合支援事業

① 居宅介護等事業の推進

障害福祉サービス事業の指定サービス提供事業者として、居宅介護事業等(ホームヘルプサービス)、生活介護事業及び就労継続支援B型事業等の実施により、障害者福祉の向上に努めた。

◆ホームヘルパー派遣回数【まるのうち事業所】

		居宅介護							
年度	身体介護	通院介助 (身体なし)	通院介助 (身体あり)	家事援助	合計	同行 援護	移動 支援		
令和3年度	127	0	50	948	1,125	1,386	38		
令和2年度	164	0	66	959	1,189	1,133	34		
増減	$\triangle 37$	0	Δ16	Δ11	$\triangle 64$	253	4		

◆ホームヘルパー派遣回数【春野事業所】

			居宅介護			同行	移動
年度	身体介護	通院介助 (身体なし)	通院介助 (身体あり)	家事援助	合計	接護	支援
令和3年度	0	0	4	209	213	338	25
令和2年度	0	0	5	221	226	337	2
増減	0	0	$\triangle 1$	$\triangle 12$	$\triangle 13$	1	23

② 生活介護等事業の推進

ア. 生活介護事業

南部障害者福祉センターにおいて、介護を必要とする障害のある方を対象に、通所サービスを通じ、外出の機会確保や生活課題に対する支援や情報提供を行い、社会活動が促進されるようさまざまなレクリエーション活動を行った。新型コロナウイルス感染症の予防対策を充分に行うも、長期利用休止者が数名おり利用者数減少となっている。

◆南部生活介護事業実施状況

年度	実施	利	用者延人	数	入浴サー	ビス利用す	皆延人数
十 及	日数	男	女	計	男	女	計
令和3年度	309	2,675	2,019	4,694	1,739	1,226	2,965
令和2年度	309	2,789	2,276	5,065	1,837	1,485	3,322
増減	0	△114	$\triangle 257$	$\triangle 371$	$\triangle 98$	$\triangle 259$	$\triangle 357$

イ. 日中一時支援事業

南部障害者福祉センターにおいて、障害のある方等の日中活動の場の確保や、ご家族の就労継続支援および介護負担軽減などを目的として支援を実施した。

◆南部日中一時支援事業実施状況

年度	実施	利	利用者延人数			入浴サービス利用者延人数		
平 及	日数	男	女	計	男	女	計	
令和3年度	154	71	159	230	0	10	10	
令和2年度	154	77	133	210	0	35	35	
増減	0	$\triangle 6$	26	20	0	riangle 25	riangle 25	

ウ. 共生型通所介護事業

南部障害者福祉センターにおいて、障害がある方が、介護保険移行後も利用しなれた 事業所で支援を受けられるよう一体的に運営を行い、日中において要介護高齢者等を施 設に迎え、排泄、入浴、食事等の介護及び創作活動やレクリエーション、外出等の機会 を提供した。年度途中に生活介護から共生型に移行した方がいるため、微増となってい る。

◆南部共生型通所介護事業実施状況

年度	実施	利	用者延人	者延人数		入浴サービス利用者延人数		
平	日数	男	女	計	男	女	計	
令和3年度	251	304	0	304	239	0	239	
令和2年度	244	279	0	279	225	0	225	
増減	7	25	0	25	14	0	14	

③ 基準該当生活介護事業の推進

土佐山デイサービスセンター及び介護センターあじさい会館において、指定通所介護事業所の余裕定員を活用し、介護を必要とする障害のある方を対象に、通所サービスを通じ、閉じこもりになりがちな生活を見直し、さまざまなプログラムを通じて、社会活動への積極的な参加を図った。

◆十佐山基準該当生活介護事業実施状況

年度	実施	利	用者延人	数	入浴サービス利用者延人数		
平	日数	男	女	計	男	女	計
令和3年度	145	175	0	175	145	0	145
令和2年度	260	319	0	319	226	0	226
増減	△115	Δ144	0	△144	Δ81	0	Δ81

◆春野基準該当生活介護事業実施状況

年度	実施	利	用者延人	数	入浴サービス利用者延人数			
十尺	日数 男 女 計		計	男	女	計		
令和3年度	8	8	0	8	8	0	8	
令和2年度	84	16	68	84	16	0	16	
増減	$\triangle 76$	△8	$\triangle 68$	$\triangle 76$	Δ8	0	△8	

④ 就労継続支援B型事業の推進

働く意欲を持ちながら雇用されることが困難な身体障害者や知的障害者等に対して、働く場を提供し、作業体験、生活体験、仲間との交流・親睦等を通して、働くことの喜びや連帯感、自立心、向上心、社会性等を育みながら、地域社会の一員として日常生活が送れるように、自立を援助する事業を実施した。

◆延べ利用者数

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和3年度	401	351	434	363	390	418	435	433	423	381	371	449	4,849
令和2年度	425	389	468	444	395	418	454	393	397	394	383	467	5,027

◆活動内容 ティッシュペーパー・お産用パットの袋詰め,除草作業,木村会館等清掃, 救急医療情報キット・名刺の製作,ほおっちょけんガチャ商品の制作 農業事業関連 ... 野菜の栽培・販売,加工品(ジャム等)の作成・販売

◆主な施設行事:新型コロナウイルス感染症対策のため未実施。

◆工賃の状況

年度	平均月額工賃(1人当たり)	対前年	対前年比
令和3年度	10,240円	1,004円減	$\triangle 91\%$
令和2年度	11,244円	1,630円減	riangle 87%
令和元年度	12,874円	59円増	100%

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、これまで主に請け負ってきた ティッシュペーパー等の袋詰めなどの軽作業が減った。また、新型コロナウイルス感染症 の陽性者が出たための待機期間や利用控えもあり利用者数が減少した。週3回の利用者を 毎日利用に変更し、利用者数は増加したが、一人当たりの平均工賃は減少した。

⑤ 指定特定相談支援事業・指定障害児相談支援事業

指定特定相談支援事業,指定障害児相談支援事業を通じ,障害児・者等が生活を営む上で発生する様々な課題を解決に導けるよう配慮しながら,基本相談やサービス利用計画作成支援等を実施した。

また、高知市の障害者福祉サービスの支給決定に係る調査業務を受託し、各調査を実施した。

◆相談支援事業 支援状況

	特定	相談支援	障害児相談支援		
年度	計画書作成	モニタリング実施	計画書作成	モニタリング実施	
令和3年度	6	9	0	0	
令和2年度	7	10	0	0	

◆高知市委託事業 調査実施状況

対象者年度	障害者	障害児
令和3年度	6	0
令和2年度	7	0

(3) 受託事業

① 生きがいデイサービス事業

生活指導(相談援助等),機能訓練(いきいき百歳体操),健康状態の確認,送迎,給 食等のサービスにより,高齢者の介護予防と社会参加に努めた。

新型コロナウイルス感染症感染予防のため、5月6日・7日及び8月20日から9月16日までの間は事業を中止としたため、利用者数は減少となった。

◆生きがいデイサービス延利用者数(単位:名)

	令和3年度	令和2年度	増減
延利用者数	599	611	$\triangle 12$

② 外出支援サービス事業

高知市からの受託事業として、土佐山地区において自宅から医療機関への通院支援等、高齢者が住み慣れた地域で生活していくための支援を行った。平成30年1月からデマンドタクシーによる土佐山へき地診療所への送迎が始まり、診療所利用者は3月末までに全員デマンドタクシーに移行した。令和2年度及び令和3年度は、新型コロナウイルス感染症のため、外来診療を控える利用者が増え、当事業の利用者が減少した。

なお、令和4年度から当事業は全ての病院への送迎がデマンドタクシーへ移行することとなったため、受託事業としては令和3年度末で終了となった。

◆外出支援サービス事業延利用者数

	利用者数	延利用者数	延時間	月平均利用者数
令和3年度	7	91	158	4.3
令和2年度	9	105	184	4.5
増減	$\triangle 2$	Δ14	$\triangle 26$	$\triangle 0.2$

[※] 延時間については、30分未満は切捨て、30分以上は切上げ

③ 介護保険・居宅介護給付外有償サービス

ア. 制度外の訪問介護・通所介護等支援

介護保険制度の訪問介護や通所介護および居宅介護事業として実施しているサービス の利用者に対して、利用者や家族の緊急又は突発的な事由若しくは従来のサービス内容 では補えない場合にケアマネジャー等の意見に基づき、制度外の訪問介護および通所介 護サービスを提供した。制度外通所介護は、令和3年度から事業を開始した。

◆令和3年度利用者数(訪問介護)

		まるのうち	春野	合計
△和3年	延利用者数	17名	16名	33名
令和3年度	利用時間	46 時間	24 時間	70 時間
△和○左 座	延利用者数	14名	9名	25名
令和2年度	利用時間	23 時間	9.5 時間	32.5 時間

◆令和3年度利用者数(通所介護)

		春野
今和?左 薛	延利用者数	3名
令和3年度	延利用者数	98名

(4) 障害者福祉の推進

① 障害者社会参加促進事業

市民が障害者理解を深めるための広報及び啓発活動を行うとともに、障害のある人の社会参加が図れるよう教室、講座等を実施した。

ア. ふれあいネットワーク事業

広報誌「こうちノーマライゼーション Vol.47 (特集「障害のある方の防災 その2」) 発行部数:5,000部 配布先:福祉関連事業所,一般企業等約920ヵ所

イ. ふれあい体験学習事業

小,中,高等学校生等を対象に,障害のある人に対する理解を深めるための体験学習 を実施した。

◆実施回数及び参加者延人数

	区分	小学校	中学校	高校	一般	合計
実施校	令和3年度	31	2	3	1	37 ヵ所
等数	令和2年度	31	2	3	1	37 ヵ所
実施	令和3年度	117	4	5	1	127 回※表 1 (内講師派遣数 65 回※表 2)
回数	令和2年度	131	2	4	1	138 回※表 1 (内講師派遣数 77 回※表 2)
参加者	令和3年度	3,618	322	361	15	4,316名
数	令和2年度	3,909	423	319	20	4,671 名

◆※表1 体験種別実施回数

区分		アイマスク	車いす	手話	点字	要約筆記	講話	合計
実施回数	令和3年度	44	47	17	4	4	11	127
天旭旦奴	令和2年度	63	42	20	3	3	7	138

◆※表2 体験種別講師派遣回数

区分		アイマスク	車いす	手話	点字	要約筆記	講話	合計
派净回粉	令和3年度	19	19	11	4	4	8	65
派遣回数	令和2年度	32	20	12	3	3	7	77

ウ. 福祉ボランティア養成事業

講座名:はじめてのボランティア講座

講 師:特定非営利活動法人 要約筆記 高知・やまもも 参加者:11名

内容: "聞こえない"障害についての理解を深め、文字言語による情報伝達手法を学ぶ。

工. 手話普及推進事業

「はじめての手話講座」※若年層への手話普及を目的に、学校の長期休暇期間中に実施第1回目<開催日>令和3年8月4日(水)~令和3年10月15日(金) (全8回)

<会 場>障害者福祉センター2階 大研修室 <参加者>17名

第2回目<開催日>令和4年2月28日(月)~令和4年3月31日(木)(全8回)

<会 場>障害者福祉センター2階 大研修室 <参加者>5名

「出張手話講座」

<開催日>令和3年4月1日(木)~令和4年3月31日(木) (11回実施)

<会 場>依頼先指定の会場 <参加者>216名

才. 生活訓練事業

◆自動車運転準備講座(高知県作業療法士会・高知県運転免許センター共催)

<開催日>令和3年10月23日(土) <会場>高知県運転免許センター

「障害のある方の運転教室」<参加者>障害者8名

肢体に障害のある人を対象に、運転補助器具等を設置した自動車の運転や適性検査 を実施することで、運転免許取得につなげる講座を実施した。

「自動車運転支援者講座」<参加者>作業療法士等7名

リハビリ等で支援を行っている作業療法士や理学療法士等が,自ら障害のある方を 対象とした運転適性検査を体験した後,前述の「障害のある方の運転教室」にも参加 し、支援方法のスキルアップを図った。

◆ I T推進講習事業

障害のある人を対象に、利用者のニーズに対応した講習を実施した。基礎・応用・検定 試験対策コースを設け、パソコンの基本操作や就労に向けての技術習得を目指した講習を 実施。検定試験合格に向けて自主勉強ができるフォローアップ体制を整えた。他コースの 同時間帯に自主勉強を実施。講習参加者65名のうち4名が6件の検定試験に合格した。

(ワード3級:3件,エクセル3級:2件,パワーポイント初級:1件)

〈年間実績〉

年度	実施回数	延参加者数	検定試験合格者数
令和3年度	12	65	4
令和2年度	13	49	5

〈各コース別内訳〉

Þ	区分	基礎コース	応用コース	検定試験 対策コース	聴覚障害者 対象コース	視覚障害者 対象コース	自主勉強	合計
実施	令和3年度	4	4	3	1	0		12
回数	令和2年度	5	3	2	1	2		13
実参加	令和3年度	21	14	21	1	0	8	65
者数	令和2年度	23	8	9	1	2	6	49

カ. 文化教室の開催(創作活動)

◆開催状況

区	分	障害者福祉 センター	南部健康福祉センター	合計	内容
実施回数	令和3年度	48	22	70	定期文化教室
夫 爬凹剱	令和2年度	49	21	70	(書道・さをり織り・陶芸・紙粘土)
参加者延人数	令和3年度	270	100	370	単発文化教室
参加有 	令和2年度	271	103	374	(プラモデル体験教室等)

※新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、令和3年度実施予定であった教室 のうち、定期教室を7回、単発教室を1回中止した。

② 障害者支援窓口事業

ア. 障害者手帳や各種サービスの申請受付及び交付

障害者手帳及び福祉タクシーチケット等の交付、各種申請書の受付等を行った。

◆令和3年度取扱状況

区分		障害者手帳・タクシー チケット等交付件数	その他各種 申請等受付件数	合計
障 害 者	令和3年度	237	176	413
福祉センター	令和2年度	226	142	368
東部健康福祉	令和3年度	242	226	468
センター	令和2年度	225	188	413
南部健康福祉	令和3年度	249	72	321
センター	令和2年度	214	63	277
春野あじさい	令和3年度	134	66	200
会 館	令和2年度	167	90	257
合計	令和3年度	862	540	1,402
Tait	令和2年度	832	483	1,315

(5) 買物支援送迎事業

高知市春野町仁ノ地域の買い物が困難な高齢者等に対し、通所介護事業の送迎車の空き時間を有効活用し、町内の量販店「サンシャイン弘岡店」までの無料送迎を地域貢献事業として週1回行った。令和3年8月から9月にかけて県の感染症対応ステージが「非常事態」の期間は、利用者に聞き取りを行ったうえ事業を一時中止した。

◆〈実績〉

年度	登録者数	延べ人数	
令和3年度	10	202	
令和2年度	10	183	